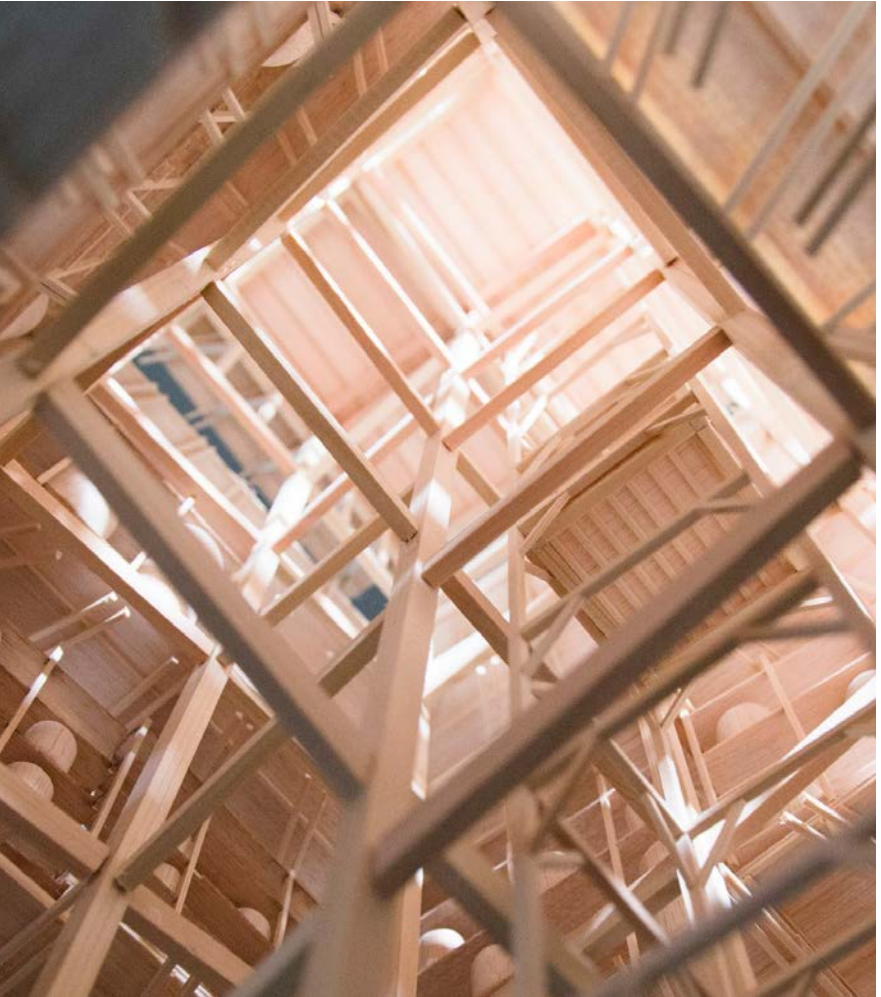


敷地は大阪府大阪市浪速区。

ここは江戸時代より太鼓作りが行われ、それによって村は繁栄した。

しかし、都市の発展と共にその数は減少し、今日では四軒の太鼓屋が残っている。

そこで、人々が訪れ、その製作風景や演奏を見て、聞いて楽しむことができる太鼓屋を提案する。



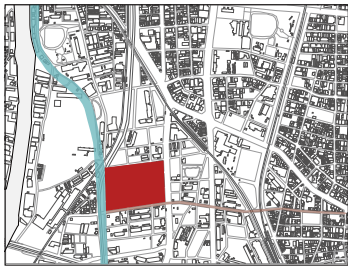
## 街の成り立ちと太鼓

### 大阪府大阪市浪速区

この芦原橋駅周辺は近世江戸時代には渡辺村、近代では西浜、現代では浪速と呼ばれる。また、当時の渡邊村は西日本の皮革の集散地であり、元和年間「革商」を許可された十三軒の早期屋敷があった村である。その十三軒には屋号が与えられた。そのため、太鼓産業も盛んで、太鼓職人も全国からこの地域に集まった。近世江戸時代における大阪西浪速、渡邊村は職多村であったため、皮革産業が盛んであった。



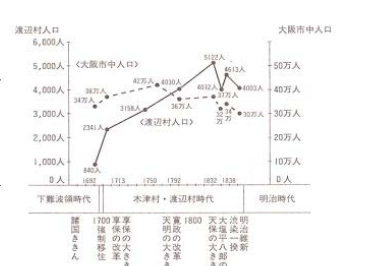
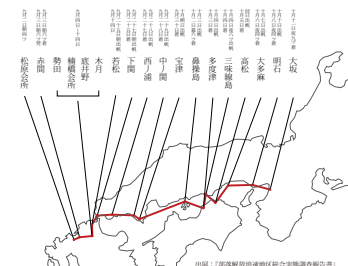
1797年（寛政九年）



2015年（現在）

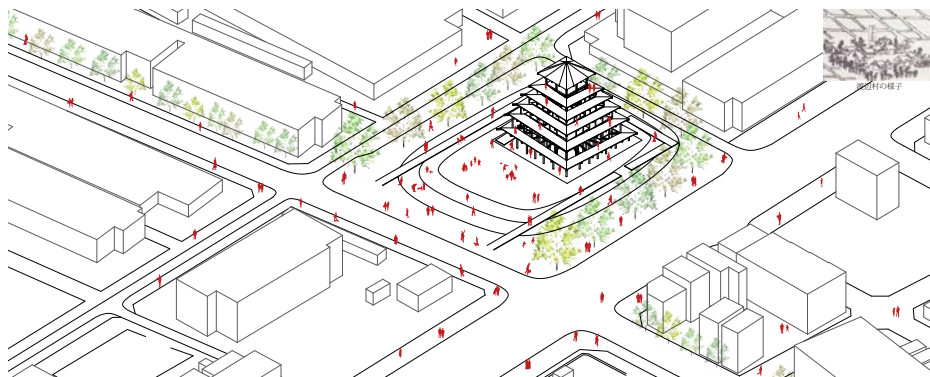
## 皮革の流通

九州・中国・四国各地で生産された皮革かなりの部分が渡辺村へ送られたようで、年間10万枚を超える皮革が、渡辺村に集められた。中心がずつと卵であったため、各地の物資が大坂へ集められるのは、ようやく西廻り航路が利用されはじめた17世紀半ばにならなかった。渡辺村が皮革の集散地となるのも、1706年（宝永三年）以降渡辺村の流通網は、これ以降、西日本の全域に広がっていく。この各地との貿易により利益を生み、村の人口は増加する。



## 敷地と周辺計画

敷地は江戸時代の古地図を重ね合わせたときに旧渡辺村の位置にあたる。旧渡辺道だったところから敷地内で連続したケヤキの木を植えることで、周囲と敷地を一体として計画する。ケヤキは音の鳴りと木目の美しさから太鼓の素材として最も優れた木材である。この周囲に植えられた木々は50年〜60年後、大木となると、ここで太鼓として生まれ変わり、販売される。建築の上部は木よりも少し高くなり、上部や展望スペースからは街を見渡すことができる。建築の周囲には木のデッキを配し、人々が座ったり、くつろげる公園のような場とした。この地域には蒲団太鼓や盆踊りなどの祭りがあり、その際はこの建築の周辺に人が集い賑わいを見せる。



## ランドスケープ

敷地を緩やかな開にするので、人々が訪れ集い合い、小さなアクティビティを生み出す。周囲には木デッキを配することで、くつろげる都市公園となる。この地域には蒲団太鼓や盆踊りがあるが、展望  
上層部は木より高く、螺旋になっているので、街を360度見渡すことができる。楯の最上部には木径2000mm以上の大きな太鼓が置かれていて、その太鼓が時報の役割を果たし、音とともに時を知らせる。  
樹木  
通りから続く木々が敷地の周囲を取り囲む。この木々は周囲から敷地を取り切る壁のような役割をする。



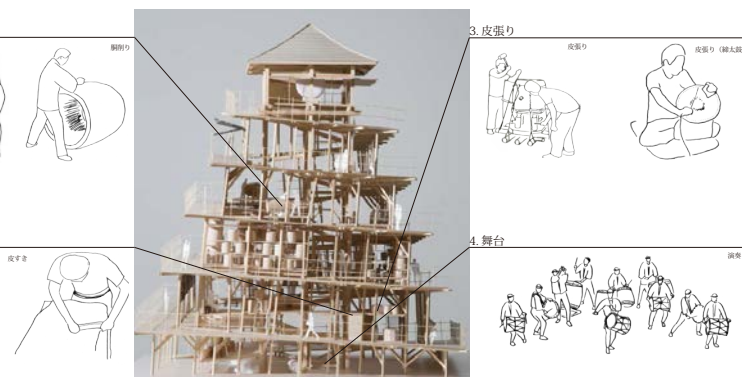
## 構成

かつて太鼓櫓は街に時や緊急を知らせる塔であった。そこに太鼓屋という機能と人々が見学するための動線を付加する。螺旋状の外部動線は街のあらゆる方向を眺めることができ、シークエンスを生み出す。それにしたがって内側の水平な床に太鼓屋としての機能が入っている。人々は動線に沿って、上部から太鼓が出来る行程を楽しめる。



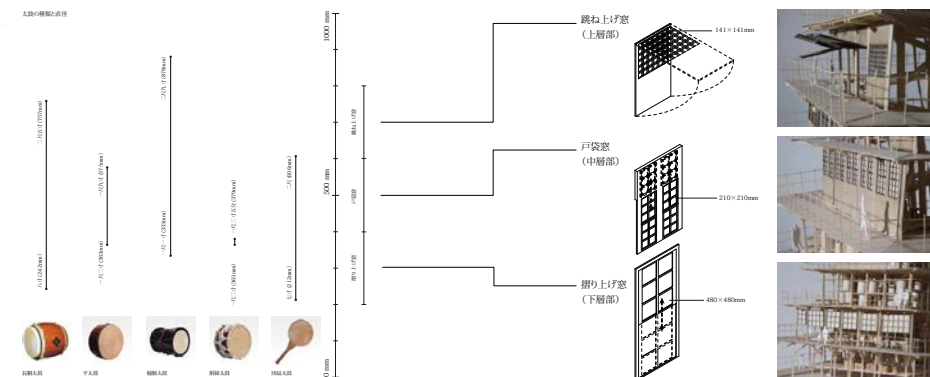
## 建築を造り、太鼓を知る。

建築の上から下へと太鼓が出来ていく。人々はその行程に沿って、外部の螺旋を下って行くことで、太鼓作りを見られるだけでなく音でも楽しめ、知ることが出来る。太鼓作りは原木から削（削削）を切り出すところから始まる。その削削をチョウナやノミで削り、歌口（太鼓削の縁部分）や内側を整えて、削りにしていく。次に皮を剥く。皮は初めは乾皮なため、水に一晩浸し、柔らかくする。そして、皮を削り、皮の癖を整える。戸板の上に水洗いしてきれいになった皮を方向に気をつけて広げ、伸ばしながらクギでとめる。水張りされた皮を二、三日、太陽の直射日光にあて自然乾燥する。最後に皮張りだが、太鼓の上に職人が乗り、足で皮を伸ばす。縁の部分と削りに接している皮を交互に木槌で打って、皮を伸ばす。ジャッキで台を上げ、音を聞きながら皮を伸ばす。



## 建具

太鼓の皮は叩いていると伸びるので、数年に一度張り替えなければならぬ。その張り替えがなくなった皮を建具として建築に利用する。建築の天井高（空間のスケール）に合わせて、建具のスケールも変化する。上部から下部にかけて、徐々にグリッドが大きくなり、建具によるシークエンスを生み出す。また、内部の太鼓屋としての機能と太鼓の皮のスケールに合わせて、建具の幅も様々なものがある。ここから生まれた太鼓がまた太鼓屋へと生まれ変わる。

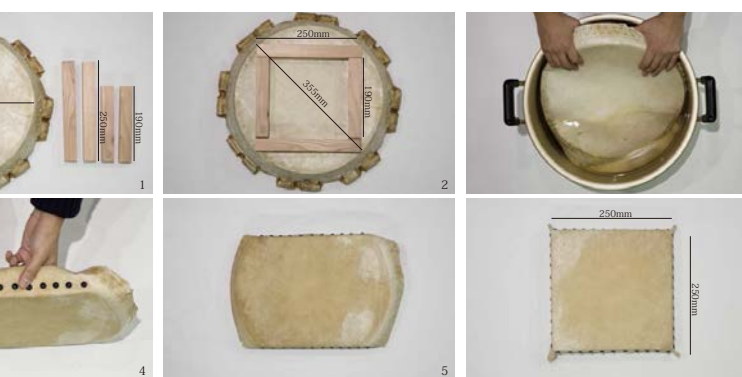


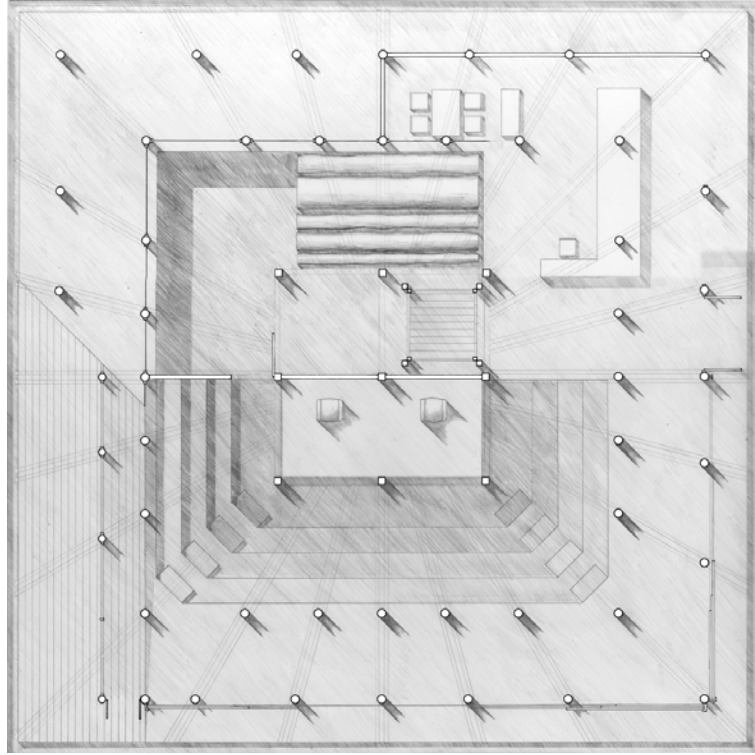
## 建具作り

太鼓の皮は叩いていると伸びるので、数年に一度張り替える。そこで、太鼓作りの手順に沿って、建具を太鼓職人達の手でつくる。この建築で生まれた太鼓が人々の手に渡り、そして最後に建築となる。

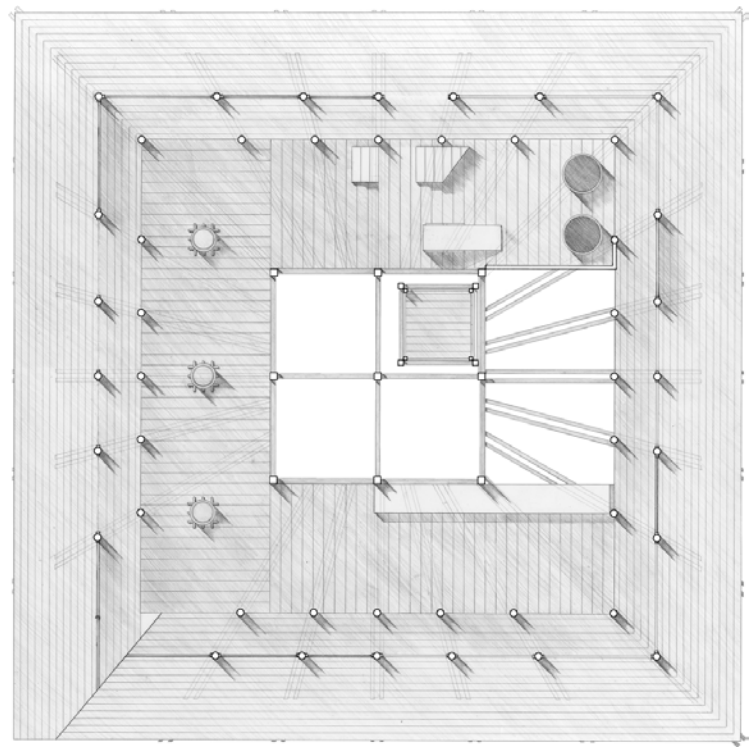
作業工程

1. 太鼓の皮（直径355mm）と木材（30mm×30mm×250mm×2本、30mm×30mm×190mm×2本）
2. 直径に合わせて木フレームを作る
3. 太鼓の皮を水に浸して皮を柔らかくする
4. 皮を引っ張りながら、太鼓釘を打ち付け皮をフレームに張り付ける
5. 向かい合う2辺に釘を打ち付け皮にたるみが出ないように張る
6. 数日乾燥させて、完成

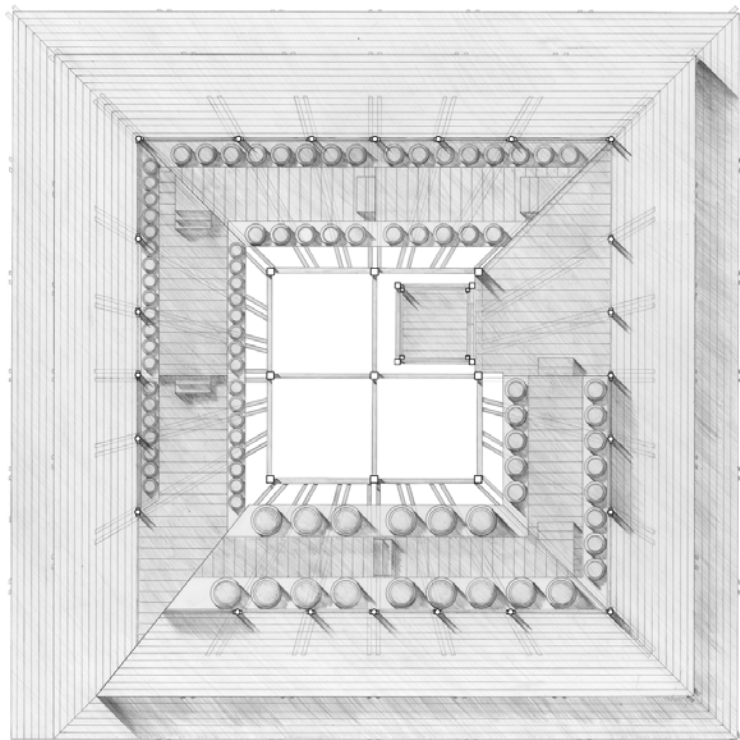




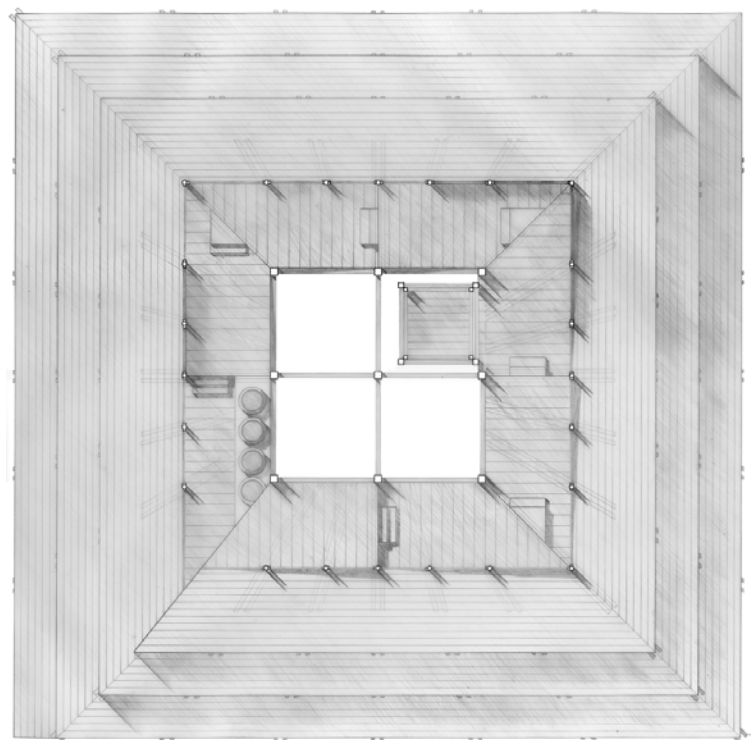
地上階平面図 縮尺 1/100



地上 2000mm 平面図 縮尺 1/100



地上 7000mm 平面図 縮尺 1/100



地上 10000mm 平面図 縮尺 1/100

